

すが、小規模でもそれなりに運営はできるし、資金の償還をきちんと進めることができると思います。そんなことから、ここ新冠だからできる酪農スタイルがあるのではないかと思います。

借金や仕事に追われるのではなく、子どもと遊びながら自分の趣味を楽しむような生活を、新冠では実現できるのではないかと思います。

**小野寺** そんな時間をもてるのが、自営業の醍醐味でもありますよね。あと、仕事をして、途中で規模を大きくしたくなれば、その時に増やしていくこともできますしね。



**農業後継について**

**職員** 小野寺さんは、新冠での新しい生活はどうですか？

**小野寺** 生活は一変しました。会社員時代は、昼間は外仕事で夜は事務処理をするという生活でしたが、今は、太陽が昇れば外で作業をして、汗を流すという毎日で、体は使いますが心地いいです。

**職員** ご両親とは、いつ頃仕事を継ぐかという話しをしたりしますか？

**小野寺** 2年くらいすると親が定年になるので、その時に継ぐ予定です。

そもそも、親があと2・3年で農家をやめるとい話しをしていて、自分が継がないのであれば、他の就農者を探すということでした。

僕も測量の仕事しながら、今後のことを考えていた時期で、農家の仕事も好きだったので、新冠に帰って仕事を継ぐことを決めました。

**益子** 経営がいいと、継ぎやすい感じがしますし、やはり、経営が厳しいと継ぐのが難しいですね。

**橋本** 同じような問題が、自分たちにも当てはまります。自営業をしている人たちは、同じ問題を抱えていますね。

**市街地・山間部の生活について**

**益子** 自分たちはよく、市街地に行きますが、市街地の人はあまり山間部に来ることがないですね。

**橋本** 道路や家はわかりませんが、目的がないと行くことがないですね。

**益子** 最近、市街地に住む人たちに、山間部の生活状況を知ってもらうことも必要だと感じています。

自分たちの住むところは、携帯の電波やネット環境が悪いところがありますが、そういうのは、なかなか理解できないですね。自分は少しでも地域と山間部の格差を小さくしたいと思っています。

**橋本** 正直、自分も理解できていない

ところはありません。

光回線の話も、仮に、町の全体の予算が1000だとして、その内の20をそこに充てるのであれば、もつたいないと考えてしまいます。

それであれば、認定子ども園などで子どもにお金を使う方がいいのではないかと思います。

**益子** 自分自身は、そこまでネットに依存した生活をしていないですが、おそらくこれからは、教育のことを考えても必要だと思います。



**井上** 現在は、情報発信は間違いなくネットが主流ですからね。

**益子** これからも何も変わらないとする、30年40年後の自分たちの集落はどうなっているか心配になります。

もしかしたら、50年後か100年後には、原生林に戻ってしまうのではないかと考えてしまいます。

自分は、携帯の電波状況やネット環境が良くなり、山間部に新しい人が住むことになれば、それは安い投資のような気がします。

**橋本** 携帯電話の電波状況が良くなることで、住む人が増えたり、新規就農者が増えたりしますか？

**井上** 自分の感覚的には、今はネット環境はあつて当たり前前で、電気や水

たいし、食べたいですね。

**橋本** 新冠でピーマンをたくさん作っている人も、普通にお店で購入するよりも、高知県産だったりするかもしれないですね。(笑)

**小野寺** 地場の新鮮な野菜などが買えないということは、地域的なメリットが見えづらいですね。

**井上** カフェで地場産の美味しいものを提供しようとしても、定期的に食材を仕入れるのは、かなりハードルが高いと感じています。

**橋本** 地場のものに接する機会が少ないことで、同じ地域に住んでいても、地域の魅力を十分に知らないのかもしれないですね。

**小野寺** そういう意味でも、地域的にどこかで線が引かれてしまっている気がします。

**益子** 私たちも、もつとアピールして、自分たちの状況や山間部の魅力を知ってもらう必要がありますね。

**最後に**

**橋本** 一昨年、商工会青年部は、宮城県山元町で開かれた復興支援を目的としたお祭りに参加させてもらいました。もし同じような企画に、農家の皆さんと一緒に参加することができたら面白いですね。

農家さんは、原料を持っていますからそれを活用し、青年部はそれを販売するといった方法で、お互いが協力して得意分野を活かせたら強み

道と同じ扱いだと思っています。

**橋本** ネット環境もライフラインの一つという考え方なんです。

**情報の発信について**

**井上** 今は自分から発信しないと、人は集まりません。お客さんは、どこかに行く時に、まずネットで検索をします。そこで検索にヒットしないということは、そこに存在しないということになります。

**橋本** インターネットは、外から人を呼び込むためには、今は必須なんです。

**職員** 最近は移住者も多く、町外の人から町内業者の情報を知りたくても、自社ホームページ（HP）を持っていないので、調べる事ができないという話しを聞きます。

ネット検索ができず、また、移住者は地域でも知り合いが少ないことから、結局は、町外に仕事を依頼してしまうこともあるそうです。

自ら情報発信できると、状況は変わってくるかもしれないですね。

**井上** 僕の店は、妻がウェブデザイナーということもあり、最初に自分たちでHPを制作しました。

**橋本** HPは開設するにも、維持するにもお金がかかりますよね。

町のPRにもなると考えれば、HPの補助制度などがあるといいかもしれませんね。

**井上** 町内にはフェイスブックをやっ

ている人は多くいますが、HPを持つている会社などは、少ないように感じます。

ネット社会が進み、ライバルが北海道内や全国に無限にいる時代なので、そこでどうアピールするかというところが、勝負になりますよね。

**橋本** 自分はアナログ派なので、対面販売で勝負したいのですが、もう無理ですか？

**井上** 難しいと思います。(笑)

**職員** 先日、地方創生に関する講演を聞いたのですが「これからは地産地消だけでは経営は成り立たない。人口が減少する中、地産地消だけでなく共倒れになってしまいうので、地産外消も大事で、いかに町外で消費してもらいかを考えることが重要で」という話しをしていました。

そう考えるとやはり町外に向けての情報発信は、重要になりますね。

**野菜などの地場産品について**

**職員** 最近では、地元野菜を販売する、軽トラ市があります。

ですが、市街地に住んでいる人は、なかなか町内で作られた新鮮な野菜を買うことができないという話しを聞きます。

**井上** 観光客の視点で見ると、やはり地場のものは魅力があるので、買い



になりますよね。町のPRや新規就農者の獲得という意味でも価値があるように感じます。

でも、現実的には、酪農などをしている人は、まとまった休みが取れないという問題もありますよね。

**益子** 何ごともやらないと動いて行かないので、まずは、動いてみる、やってみることが大事だと思います。

**職員** 商工会や農業者などのつながりはありますが、横のつながりはあまりないので、それぞれが連携しているといいですね。

**橋本** 交流することは大事です。お互いの顔を知らないのと頼めないし、前にも進まないの、お互いを知るために、情報交換という飲み会ができたらいいですね。

また、今回のテーマでもある地方創生についても、「オール新冠」で考えていく必要があります。

参加者の皆さんには、2時間に渡り、たくさん話しを聞かせていただきました。ご協力いただき、どうもありがとうございました。

